



日本共産党八王子市議団ニュース

19期-No.12
2011年11月1日

やまこし拓児の 議会報告

発行
日本共産党八王子市議団
TEL 620-7317
FAX 626-3398

放射能 汚染対策

日本共産党市議団独自に 市内の放射線測定に取り組む



日本共産党八王子市議団は、原発事故による放射能汚染に対し、きめ細かな放射線量測定の実施を求めています。8月2日には、市議団が全会一致で採択した請願の通りにきめ細かい測定を行うよう、市に申し入れ

ました。また、共産党市議団は独自の測定活動も続けてきました。やまこし拓児議員は、10月10日に清水ひで子都議とともに多摩ニュータウン内の公園を中心に測定を行いました(上の写真)。結果は右表の通りです。

その後市は11月から保育園・幼稚園・小中学校・学童保育所・公園など368施設で2台の測定器を使い、順に測定を行っていくと発表しました。

多摩ニュータウン地域放射線量調査

測定場所	地表高m	平均値
大塚公園運動広場	0.05	0.071
	1	0.069
秋葉台公園芝生上	0.05	0.085
	1	0.065
秋葉台公園駐車場入口	0.05	0.113
別所公園遊具そば	0.05	0.063
	1	0.060
長池公園南東角	0.05	0.073
長池公園見附橋南階段下	0.05	0.071
	1	0.065
長池公園側溝端地面	直上	0.164
	0.05	0.064
大平公園芝生広場	1	0.060
大平公園南端落葉溜り	0.05	0.125
	0.05	0.077
小山内裏谷戸公園砂場北側	1	0.068

※平均値↓10秒間隔で10回測定の平均

この間の市議団の調査で西部地区の児童関連施設の敷地の一部から比較的高い放射線量を計測したため、一般質問で対策を求めました。

八王子市が11月から保育園、小中学校など 368施設での測定を開始

保育の 市場化

「子ども・子育て新システム」は撤回を

意見書は、「新システムの導入は保育現場に市場原理を持ち込まれることになり、福祉としての保育制度が維持されないことや、保護者の負担増につながる制度見直しとなるなどの懸念があり、国の責任で福祉として行われてきた保育制度の根幹が大きく揺らぐ恐れがある」と指摘し

市議会が国に意見書

賛成多数で可決、やまこし議員が賛成討論

9月27日、八王子市議会は「子ども・子育て新システム」の撤回を求める意見書を賛成多数で可決しました。

9月17、18日、2回目の救援ボランティア10人を石巻市に派遣し、救援物資が配れるよう軽トラックを八王子から寄贈しました。500人以上の協力を得て100万円を集めました。共産党市議団から鈴木ゆうじ、アオヤギ有希子議員が参加しました。

被災地救援・復興支援へ 石巻へ軽トラックを寄贈



9月17、18日、2回目の救援ボランティア10人を石巻市に派遣し、救援物資が配れるよう軽トラックを八王子から寄贈しました。500人以上の協力を得て100万円を集めました。共産党市議団から鈴木ゆうじ、アオヤギ有希子議員が参加しました。

よろず相談案内

- とき 11月10日(木)午後7時～9時
2月 2日(木)午後7時～9時
3月28日(水)午後7時～9時

- ところ 由木中央市民センター

- 弁護士が相談に対応します。必ず事前にやまこしあてに予約の連絡をお願い致します。



連絡先

日本共産党地区委員会 TEL 642-6344 FAX 646-8055
やまこし拓児議員宅 TEL 678-1374 FAX 678-0276

中学校給食 あたたくおいしいものに できるところから「親子方式」へ転換を

この質疑の中で、食育の目的をただしたところ、市は「自分で弁当をつくることのできる生徒をめざすことだ」と答え、さらに教育長は「自分で弁当がつくれるようにならたら給食はいらない」と発言しました。

「今後は安全、安心で温かい給食を提供したい」（2009年6月）と述べた教育長自身の答弁とも矛盾します。

給食を必要としている生徒や保護者の願いと現実に背を向けるものではないでしょうか。

**「自分で弁当をつくれる
ようになったら給食は
いらない」（教育長）**



デリバリーランチの一例（八王子市）

表1 各地の喫食率

八王子市	21.0%
立川市	62.1%
東村山市	63.0%
狛江市	67.4%

日本共産党市議団は「この方式は限界がある」と、自校方式でつくられた温かい小学校の給食を中学校まで運ぶ「親子方式」を提案してきました。

日本共産党市議団は、今議会の決算審査であらためて中学校給食の改善を求めました。

喫食率が下がり続けるデリバリーランチ方式の中学校給食。導入当初は30%でしたが2010年度末には21%まで下がりました。同じデリバリーランチ方式をとっている他の自治体と比べてもその低さが目立っています（表1）。

9月8日から10月14日まで第3回定例市議会が開かれました。やまこし拓児議員は、「一般質問」「子ども・子育て新システムの撤回を求める意見書」に対する賛成討論、2010年度決算認定に反対する討論を行いました。

介護保険 特養ホーム、ショートステイ… 施設も増やし安心の介護を

やまこし拓児議員は、介護の充実をめざして一般質問を行いました。

市が行ったアンケート調査で、介護事業者が八王子で不足を感じる介護サービスは何かとの問いに対し、「短期入所生活介護」（ショートステイ）の割合が36・6%と最も高く（3年前の調査時より12・2ポイント増）、「介護老人福祉施設」（特養ホーム）の割合が29・5%（9・5ポイント増）となっています。

やまこし議員が、第5期介護保険事業計画策定にあたり、特養の増設・整備、ショートステイ用のベッド確保を強力に進めるよう求めました。これに対し、岡部副市長は、「第4期中に既存施設の増床等で



149床緊急整備し、第5期の計画でも特養ホームの整備やショートステイの充実が必要」と答えました。

介護人急病や高齢者虐待…

施設が順番で緊急の受け入れ

介護人の急病、事故のほか高齢者虐待の疑いのある場合など、緊急にショートステイを利用しなければならぬ場合があります。

しかし、ショートステイは、通常利用の場合でも申込みが多く、毎月1日の予約受付開始15分でいっぱいになるという施設もあります。そこで、やまこし議員は、緊急のショートステイの受け入れベッドを確保していくよう求めました。

これに対して市は、「これまで市内特養ホームへ1件1件問い合わせをしていたが、今後は一定の条件で順番に受け入れてもらう仕組みとなる」と答えました。